



鎮守の森だより

NPO 法人社叢学会ニュース

第136号

2026年1月10日

年頭所感

NPO 法人社叢学会理事長・皇學館大学名誉教授

櫻井 治男

令和8年を迎えました。年初にあたり、会員各位並びに本学会を支えて下さっている皆様のご健勝と弥栄をお祈りします。

福井県が生んだ幕末の歌人で、国学者として知られる橘曙覧の和歌に「春にあけてまづみる書も天地のはじめの時と読み出づるかな」という詠があります。一年のはじめにあたり最初に手にする書は、「天地のはじめの時」との書き出しで始まる『古事記』であると。

この『古事記』、筆録者の太安万侶は序文のなかで「化熊川を出でて天劔を高倉に獲」と、神武天皇が紀伊国熊野を経て大和国へ赴く途次、怪しげな熊に遭遇しその毒気に当り臥してしまったが、霊劔をえて正気を取り戻すとの本文の逸話をもとに簡潔に記しています。地名の「熊野」と、困難を乗り越える英雄譚にしばしばプロットとして登場する難敵、ここでは「化け熊」とを結びつけた創作の世界のこととと思っていたのですが、昨年の熊の出没状況は、このストーリーが真実味を帯びているのではないかなと思えるほどでした。お亡くなりになった方々、負傷された方々のことを推し量ると居た堪れないところで、改めてお悔やみとお見舞いを申し上げる次第です。

熊にとって森の恵みに異変があったことや、放棄果実が問題であるなどとして、急にそうした情報が強調され大量に流れてくると、怖恐感が増幅され、受け止めるのに戸惑うことがあります。しかし、それぞれの根拠を確認しつつ理解を深めるとともに、普段は近さを感じていない出来事に多様な観点から接近するように心がけたいと思うところです。このこ

とは鎮守の森、社叢の様子に対して身近に感じていただけるように活動する本学会の役割と重なっているかと存じます。

さて、昨年は太宰府天満宮様のご協力で九州大会を滞りなく開催でき、修復中の御本殿の拝見、竈門神社・英彦山神宮の参拝と社叢見学ができました。また各支部の例会開催をはじめ社叢インストラクター養成講座の実施など諸事業を積み重ねてきました。ただし、ホームページの更改と画面工夫を一層進める必要があることをはじめ、全国組織としての運営に不慣れな点など課題も多々あり、各位にはご不便をおかけしていることと思いますが、積極的に会の運営に関わっていただければ幸いです。

来る6月20(土)には埼玉県大宮市の氷川神社を会場に令和8年度の大会を予定しており、関東支部の理事を中心に準備を進めていただいています。本会先人の諸先生方がなさって来た大きな事業に及ぶところではありませんが、本年も着実に活動が進められますようご協力とご支援をお願いします。

冒頭に掲げた橘曙覧の「独楽吟」に、自身の楽しみを詠んだ歌として、

たのしみは艸のいほりの薙敷きひとりこころを静めるとき

たのしみはあき米櫃に米いでき今一月はよしといふとき

たのしみは雪ふるよさり酒の糟あぶりて食ひて火にあたる時というのがあります。草庵での心静かなひと時、秋にお米がとれ、ひと月でも良いとする日常の生活のつつましさと、ささやかな酒盛りは私たちの現代生活に何が必要かを訴えているようです。

令和8年度 年次総会概要

期 日 6月20日(土)、会 場 氷川神社(さいたま市大宮区)
特別講演 「氷川神社の歴史と祭り(仮)」(馬場直也 禰宜)
シンポジウムテーマ 「千年の杜と『水』を未来につなぐ」
見学会(予定) 6月21日(日)終日

★詳細及び参加申し込み方法は次号にて発表します。

★研究発表を希望する方は、2月末までに事務局に論題(仮題でも可)と要旨(200字程度)をお送りください。



聖なる森に憧れて

話題提供：ケビン・ショート (Kevin Short) 氏
(博士・文化人類学者 東京情報大学環境情報学科元教授)

1972年、アメリカ陸軍の軍人として来日して以来、日本の自然と文化に惹かれ、日本の里山の風土をフィールドとして、調査・研究・啓蒙を重ねられているケビン・ショート氏の「聖なる森に憧れて」と題したご講演であった。

ケビン氏の名前は、6世紀アイルランドグレンダーロホの溪谷に最古とも言われる修道院を築いた「グレンダーロホの聖ケビン」に由来する。

この聖地は長い歴史のなかで奥深い森に守られ存続してきた。彼の自然への愛や、生き物への優しい心はたくさんの伝説を残した。有名なものにクロウタドリのお話がある。森のなかで祈りのために両腕を広げて立っていた際、クロウタドリがその手の中に巣を作り、卵を産んだ、彼は雛が巣立つまでその姿勢を崩さず見守り続けたという。そうした由緒あるお名前なのである。

さて、北総の社寺林の多くは潜在自然植生が見られる貴重な森となっている。例えば千葉県印西市の結縁寺熊野神社・船尾宗像神社において毎木調査を実施した結果、この森には本来の自然性が高い植生が残っていることがわかった。そして、両神社の鎮守の森はスダジイおよびアカガシの大木を主体とする照葉樹林であることがわかった。日本の植生分布図を見ると印西地域は北総（下総台地）に位置し常緑広葉樹林域（いわゆる照葉樹林）となっている。「照葉樹林」は東アジアの亜熱帯から暖温帯にかけて広く分布しており、日本では琉球列島全域から関東地方南部の低地・低山帯までが分布域とされ、東北地方でも海岸沿いに分布している。しかし、日本の照葉樹林分布域は古くより人間の主要な生活圏と重なってきた。現在まとまった照葉樹林の森はほぼ全滅に近く、宮崎県の綾町や奄美大島、沖縄県ヤンバル地域などわずかな残存に限られる。

北総でも照葉樹林の減少は著しい。例えば印旛沼周辺や千葉市緑区の潜在自然植生によると、沼や谷部に面した台地の縁に「ヤブコウジ・スダジイ群集」が多く見られるが、環境省自然環境局生物多様性センターが作成する「現存植生図」では僅かしか確認できない。また、佐倉市の「潜在自然植生図」と「現存植生図」を比較しても「ヤブコウジ・スダジイ群集」の分布域が狭くなっていることが確認できる。しかしここで注目したいのは、この希少な照葉樹林のほとんどが社寺林として残されてきたことである。また、このような小面積の森は、破壊や外部からの侵入を受けやすく、森林の群集タイプを確実に断定



ケビン・ショート先生の講演風景（於：國學院大學）

するのは難しいが、結縁寺熊野神社・船尾宗像神社の毎木調査では、ヤブコウジをはじめ、マンリョウ、シロダモ、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、カクレミノ、ネズミモチなど、「ヤブコウジ・スダジイ群集」に典型的な樹種が多く見られることから、印旛沼周辺にも自然植生に近いものが残っているといえるだろう。印西市内には本来の植生が残る鎮守の森が多く見られる。鎮守の森は神々の棲む「聖なる森」として集落の人々に手厚く守られてきたのである。

淡路島の「国生み神話」や記紀に記された自然の神々の誕生を例にあげるまでもなく、森羅万象に神が宿るという日本人の自然に対する思想は、世界的にも注目され、貴重な文化といえる。しかし現在では、農村集落の人口減少や高齢化、また土地の開発により鎮守の森の存続が危うくなってきている。貴重な自然文化遺産である社寺林を未来に継承するためには、住民たちとも協力し、NPO、行政、企業などが一丸となって農村集落の活性化と社寺林の保全を図らなければならない。

ケビン氏がこの印西市をメインフィールドとするようになって39年、毎日のように自転車やカントリウオークで鎮守の森や里山を巡り、観察ノートとフィールドスケッチを残し、植物や生き物の様子、歴史や伝承文化についても記録している。数えきれないほどの道端の小さな石仏からも、人々の心に潜む気持ちを感じ、里山の原風景の中の貴重なパーツとして大切にしていると熱く語った。

(文責・大畑孝子)



「社叢の樹木と生態」一本殿後方の社叢観察を通して

前迫ゆり(社叢学会副理事長, 奈良佐保短期大学副学長)

この数年, 社叢インストラクター養成講座と秋の関西定例研究会を同時開催している。今回, 講演は櫻井先生にご依頼し, せっかくの機会なので, 通常は立ち入ることができない賀茂御祖神社本殿後方の社叢の見学をご許可いただき, 会員のみなさまとともに社叢を観察した(参加者18名)。

本社叢は賀茂川と高野川のデルタ地帯に位置し, 「ただす 糺の森」とも呼ばれる。京都北山からの冷たい風と河川の氾濫の影響を受けたことによって, ケヤキ, エノキ, ムクノキに代表される落葉広葉樹林が成立したと考えられている(四手井, 1993)。今でも参道付近や境内に流れる小河川沿いにはエノキやケヤキの大径木が生育し, 自然環境を反映する森の断片をみることができ(写真1), 「社叢」の意義をあらためて感じる。その一方, 1934年の室戸台風によって落葉広葉樹が多数倒木し, 多くのクスノキ(常緑広葉樹)が植栽された。植栽後80年以上を経過し, 大径木に成長したクスノキが参道付近や社殿後方の社叢景観を形づくっている。

社殿後方の森(写真2)は参道付近に比べて常緑広葉樹(コジイ, イチイガシ, クスノキなど)の比率が高い。これは塀と本殿に囲まれることにより, 参道付近よりも常緑広葉樹が生育しやすい気象環境だったのではないかと菅沼先生にうかがったことがある。1979年に本社叢の植生調査を行ったところ, 低木層にアオキ, 亜高木層にはヤブツバキが優占していた(前迫, 1987)。その後, アオキは1990年の干ばつにより枯死したため(森本, 1993), 現在, 低木層にはイヌマキ, クロバイ, イヌビワなど, 鳥によって運ばれたと思われる種がギャップ下で生育している(写真4)。高木層にはケヤキ, エノキ, コジ

イ, イチイガシ, クスノキなどが生育しているものの, 成長の早いクスノキが優占している点が目立ちやすい(前迫, 2019)。短い時間であったが, 「神御座す森」が自然と人とともに時間を刻んでいることをあらためて感じた。

(右 写真1)

(下 写真2)



第12回 宗像国際環境会議 開催

当社叢学会が実行委員として参画する宗像国際環境会議は, 本年度で第12回を迎えた。10月26日から28日までの3日間, 福岡県宗像市の宗像大社を主会場に開催され, 「常若 未来を拓く」をテーマに, 発表者およびコメンテーターを含む約50名の専門家を招へいし, 8つのセッションを通じて活発な議論が行われた。

セッション7「持続とは」には, 葦津敬之 社叢学会副理事長(宗像大社宮司), 賀来宏和 理事(千葉大学大学院 客員教授)が登壇した。葦津副理事長は, 神社の鎮守の杜に息づく日本人の自然観のルーツを

ひもときつつ, 環境問題の本質に言及した。賀来理事は, 式内社と呼ばれる千年以上の歴史を有する約4,800社を巡拝した実体験を踏まえ, 「千年続いたものを絶やして未来はあるのか」と問いかけた。

3日間の議論を総括した「宗像宣言」および, 学生分科会による「若者提言」は, 年末に石原宏高 環境大臣へ手渡しされた。

宗像国際環境会議実行委員会 HP
<https://www.munakata-eco.jp/>



第79回理事会を開催

第79回理事会を下記の通り、リモートで開催した。
日 時：2025年11月21日（金）17時～18時30分
出席者：全理事22名のうち15名（委任状提出2名）
審議事項

第1号議案：次年度の総会について

第2号議案：社叢インストラクター養成並びに資格更新について

第3号議案：本年度、次年度の会計について

第4号議案：役員改正について

第5号議案：定款変更日程ならびに事務所移転に関して
報告事項：会誌『社叢学研究』の発行について／会報135号の発行について／定例会の予定など／ホームページ改訂に関して／その他

資料にもとづいて審議を行い、議案の了承とともに、2026年6月20日（土）にさいたま市の氷川神社にて通常総会等を行うことを決定した。

事務局から

会員の皆様へ：E-mailアドレス登録の依頼

～E-mailアドレスリストの作成について～

社叢学会では、昨今の郵便料金や印刷費の高騰を受

け、デジタル化を進めて参ります。会員の皆様におかれましては、普段使われているE-mailアドレスの登録を宜しくお願い申し上げます。

*登録方法：次のQRコードから登録をお願い申し上げます。



賛助会員の皆様へ、名刺大広告募集のお知らせ

「社叢学研究第24号」に名刺大広告（無料）掲載ご希望会員は、1月末までに学会事務局へお送り下さい。

編集後記

櫻井理事長の年頭所感を始め、各定例研究会報告のご執筆のご協力により、令和8年の年頭にあたるニュースレター136号を発刊することができました。

令和8年度の年次総会は菅浩二理事のご尽力により、さいたま市大宮区の氷川神社さまにて開催されることになりました。特別講演やシンポジウムの内容、更には見学会の詳細については、次号で参加申し込み方法とともに告知させていただきます。

現在、年次総会での研究発表を募集中ですので、日頃の研究成果を是非ご発表ください。

（編集担当 賀来宏和）

次回予告 【第97回関東定例研究会】

- ◆日 時：令和8年1月24日（土）14:00～16:00
- ◆場 所：國學院大學渋谷キャンパス（教室は未定）
- ◆テーマ：伊豆諸島の照葉樹林と巨樹（仮題）
- ◆講 師：上條隆志（筑波大学生命環境系教授）
- ◆費 用：無 料（申し込み不要）

次回予告 【第97回関西定例研究会】

日 時：令和8年3月7日（土）13:00～15:00
場 所：吉田神社参集殿（〒606-8311 京都府京都市左京区吉田神楽岡30：京都市バス「京大正門前」停留所より徒歩 約5分；京阪電車出町柳より徒歩 20分）
テーマ：「京都と名園～景観生態学の視点から」
講 師：森本幸裕（社叢学会副理事長，京都大学名誉教授）
コッパター：今西亜由美（近畿大学総合社会学部教授）
進 行：前迫ゆり（社叢学会副理事長，奈良佐保短期大学副学長） * 申込先：社叢学会事務局

次回予告 【第42回中部定例研究会】

日 時：令和8年3月14日（土）11時近鉄大阪線名張駅東口（集合）、17時名張駅（解散）
場 所：宇流富志禰神社，名張藤堂家屋敷，（昼食），13:30～杉谷神社（名張市大屋戸），積田神社
テーマ：「伊賀国・名張の社叢めぐり」
講 師：中野 昇（杉谷神社宮司）・櫻井治男・岡村 穰・長谷川泰洋（敬称略）
費 用：会員無料（非会員500円）
連絡先：岡村 穰 090-9924-9964、櫻井治男 hsakurai@kogakkna-u.ac.jp

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号

TEL・FAX 075-212-2973

URL <http://www.shasou.org> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp